

西建協だより

323号

2021年6月



西多摩土木遺産 「温故知新」 第1回 秋川街道と調布橋

私ども西多摩建設業協会の協会員は代々、西多摩地域で数多くの公共事業のインフラ整備に関わってきました。そのため、西多摩地域のインフラについては、誰よりも熟知している集団ではないかという自負がございます。それを更に磨き上げ、地域貢献につなげていくことが必要であると考えています。

そこで、先達の事業をふりかえり読者の皆様がたにもご披露をさせていただくことを考えました。幸いなことに足跡は各地に土木構造物として残っています。また工事中や、以前の構造物の姿の記録もあります。

その足跡をたどる企画を社団法人の発足に合わせ開始することといたしました。「西多摩の土木遺産「温故知新」と銘打ちました。よろしくお願ひ致します。第一回は、この写真(写真①)から話を始めます。



写真① 二ツ塚道路改修工事

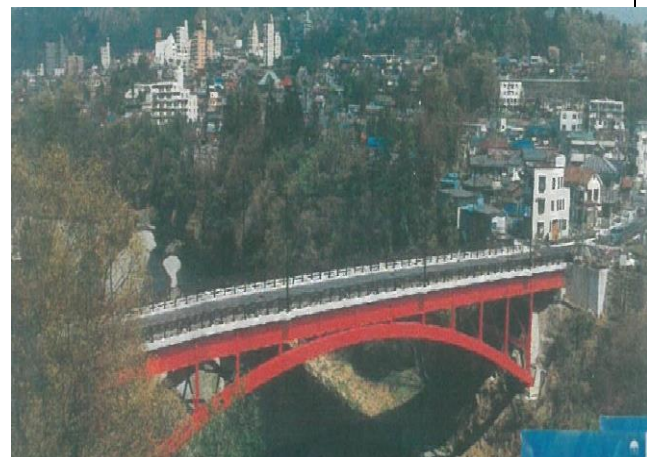
この工事を請け負った会社の先代の代表の方にお話を伺うことが出来ました。写真の現場は、昭和三十六年の秋川街道(青梅〜五日市線)の土木工事です。場所は現在の「二ツ塚最終処分場」の入り口信号付近になります。当時は、この青梅〜五日市の峠の道路は明治三十七年に地域住民の請負方式で都からの補助金(当時は東京府支弁金といいました)と住民寄付で築造されたものでした。自動車は通ることはできませんでしたが、劣悪なものであったようです。(ちなみにこの時の住民総代請負人は、今お話を伺っている代表のかたの先々代になります。)そこに新道を作る工事です。

写真に写っているブルドーザーは横田基地から借り受け、大型ダンパーと連携した西多摩での初めの土木工事でした。当時は、山の掘削も主たる動力は人力に頼っていました。

さて、この写真についてお話をさせていただきます。この秋川街道が多摩川を超える橋、調布橋について伺うことが出来ました。青梅市長瀬と千ヶ瀬町をつなげる橋梁になります。

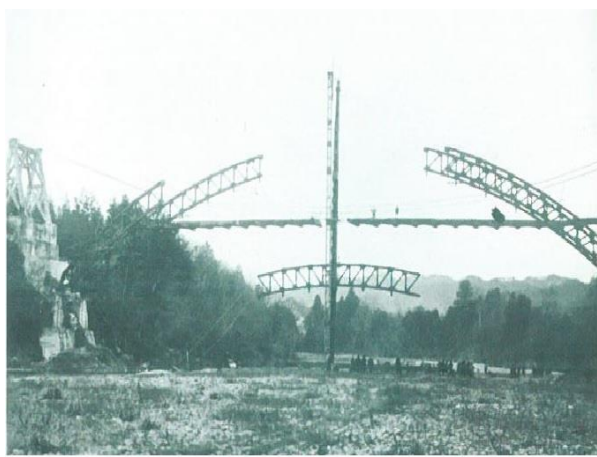
現在の調布橋(写真②)は平成6年に竣工し三代目になります。典型的なアーチ橋です。道路が橋の構造物の上にある上路橋のため多摩崖線の豊かな緑の景観が非常に映えて見えます。青梅観光の目玉の一つにもなっています。

それ以前の調布橋(二代目)は、当時としての最先端技術を駆使しました。



写真② 3代目調布橋

工事中の写真が残っていましたので掲載しました。(写真③)橋の構造は三代目同様のアーチ橋ですが、道路を上から支える下路橋になっています。なお初代の調布橋は大正十年に幅員9尺(2.7メートル)のつり橋がかけられていました。



写真③ 2代目調布橋

その初代の橋梁銘版が保存されています(写真④)。取材を受けていただいた方が会社が三代の調布橋をすべて請け負ったこと。各代の橋のメモリアルプレートが会社の前に掲示されています。



写真④ 初代調布橋 銘板

その会社は、明治十七年に創業をした「岩浪建設」です。調布橋を五日市に向かって渡り、すぐの場所に本社を構えています。取材を受けていただいたのはその先代の社長の岩浪勝二氏でした。

今は、西多摩の八市町村、どこへでも自動車で行き交うことができます。しかし西多摩は深い山と川に囲まれた自然豊かな地であるがゆえに、山を拓きひろく深い河を渡らないことにはどこへも行けない場所でした。それを多くの土木工事で便利にしました。しかし、整備されても、自然は常に身近にあるのが西多摩です。インフラの整備だけでなく、その管理維持にも地域を熟知し経験と技術に裏打ちされた建設集団は欠かせません。

地元の期待にこたえられるように地元建設業集団として更に成長していくことが必要だと今回は改めて感じた次第です。取材に協力をいただいた岩浪勝二氏には紙面を借りてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

STOP! 熱中症 クールワークキャンペーン (職場における熱中症予防策)

— 熱中症予防対策の徹底を図る — (令和3年5月1日~9月30日)

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000116133.html> 参照

令和三年度 経営講習会 開催報告

西建協 広報委員会

新緑の候、令和三年六月十一日(金)西多摩建設業協会並びに東日本建設業保証(株)共催のもと、経営講習会を行いました。新型コロナウイルス感染拡大が懸念される中、福生市民会館小ホール(受講者約三十名と少人数にてソーシャルディスタンスを保ち、受付時には検温・消毒等の感染防止対策を行い開催となりました。

今回の講演内容は、中井佳絵 防災士(ボウジョレノプロジェクト代表講師)をお招きし、

『新型コロナウイルス感染症へのリスク・コミュニケーション』

をテーマとして、講演をして頂きました。経営者から社員又は従業員同士等様々なコミュニケーションの状況がある中で、コミュニケーションを難しくするリスク認知の癖を知り、送り手から受け手のコミュニケーションのあり方について、クイズ等も交えながら参加型で行いました。

新型コロナウイルスや天災、人災と様々なリスクがある中、リスクに対する考え方は一人一人の個人によって大いに差があり、その差をお互いが理解しコミュニケーションを行う事が重要なのだとあらためて考えさせられました。

終盤には送り手がどう受け手とコミュニケーションをすればリスクをチャンスに出来るかを学び、社内コミュニケーションを円滑に行うにあたって、大変有意義な講習会であったと感じています。この度、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底し、無事講習会を開催出来

たことに対し感謝するとともに、今後も滞ることなくこのような有意義な催し事が開催されることを心よりお祈りいたします。開催にあたりご協力いただいた東日本建設業保証(株)様におかれましては、この場をお借りして感謝申し上げます。



講習会同日の様子 ※ コロナ対策の為、座席間隔を空けています。

◇あ と が き◇

残念ながらコロナ禍の終息はまだ見えません。そのうえ、これから梅雨本番、それが終わると夏本番です。仕事を休むわけにはいきません。大変な時季ですが、それだからこそ、うまく乗り切れば協会も会社も我々自身も更に充実していくのではないかと思います。知恵を出しあい、それを共有して乗り切っていきましょう。それに少しでも役立つ「西建協だより」になればと頑張ります。さて、本号より新たな企画をはじめました。先達の足跡を追う「西多摩土木遺産・温故知新」です。連載記事に育てていきます。皆さまのご指導やご協力をよろしくお願い致します。なお、次号では青梅労働基準監督署の小林安全衛生課長を取材し熱中症対策などについてお聞きします。

～広報委員会～

6 月 事 業 報 告

- 10日 広報委員会 323号編集
- 10日 災害対策安全委員会
- 11日 令和3年度 経営講習会 事業委員会
- 14日 総務委員会
- 15日 理事会
- 15日 建災防 令和3年度 定期総会

7 月 事 業 報 告

- 9日 広報委員会 324号編集
- 10日 災害対策安全委員会
- 19日 建災防 東京支部 事務担当者会議
- 19日 総務委員会
- 20日 理事会
- 29日 災害対策安全委員会 工事現場パトロール



日建学院 青梅認定校
合格のための受験対策講座
2021年度開講講座のご案内

- 1級土木施工管理技士 一次・二次
一次:3月中旬～ 毎週 火・木(夜間) 280,000円(税込308,000円)
二次:7月中旬～ 毎週 火・木(夜間) 110,000円(税込121,000円)
- 1級建築施工管理技士 一次・二次
一次:2月中旬～ 毎週 火・木(夜間) 280,000円(税込308,000円)
- 2級土木施工管理技士 一次・二次
前期一次:3月中旬～ 毎週 月・水(夜間) 190,000円(税込209,000円)
後期一次・二次:6月中旬～ 毎週 火・木(夜間) 250,000円(税込275,000円)
- 2級建築施工管理技士 一次・二次
前期一次:3月下旬～ 毎週 月・水(夜間) 140,000円(税込154,000円)
後期一次・二次:8月中旬～ 毎週 月・水(夜間) 200,000円(税込220,000円)
- 給水装置工事主任技術者
8月下旬～ 毎週 火・木(夜間) 220,000円(税込242,000円)
- 宅地建物取引士
3月中旬～ 毎週 水(昼間) 230,000円(税込260,000円)



毎年たくさんの有資格者が
青梅校から誕生しています!

詳細は随時ご説明いたします。お気軽に下記までお問い合わせください。

青梅認定校(西建協) 0428-22-6245 石川
日建学院立川校 担当:高橋かおり 090-4171-6169